

# わが国における交通事故と 高齢運転者の実態

本章では、わが国における交通事故の概要と自験例を含めた高齢運転者の実態を解説する。

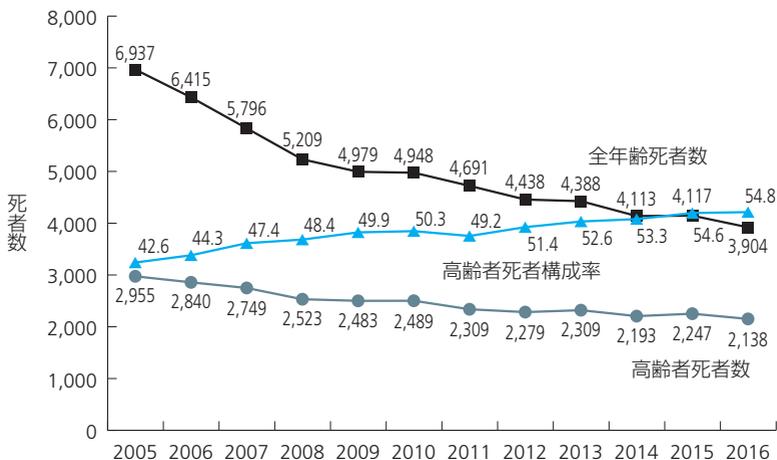
## わが国における交通事故死亡件数の変遷

わが国では、交通事故死亡件数が1万人を超える時代もあったが、シートベルト着用の義務化と飲酒運転の厳罰化などが功を奏して死亡事故件数は減少の一途を辿っている。【図1】は、2005年から2017年までの死亡事故件数をグラフで示したものである（平成28年中の交通事故死亡数について 警察庁交通局運転免許課の統計などから作成）。2016年に初めて死亡件数が4,000人を下回ってきていることがわかる。【図2】は、高齢者（65歳以上）の死者数の推移を示したものである。交通事故による高齢者の死者は絶対数で見ると漸減



【図1】 2005年から2017年までの死亡事故件数の推移

（平成28年における交通事故死亡数について 警察庁交通局平成29年2月23日などの資料から著者作成）

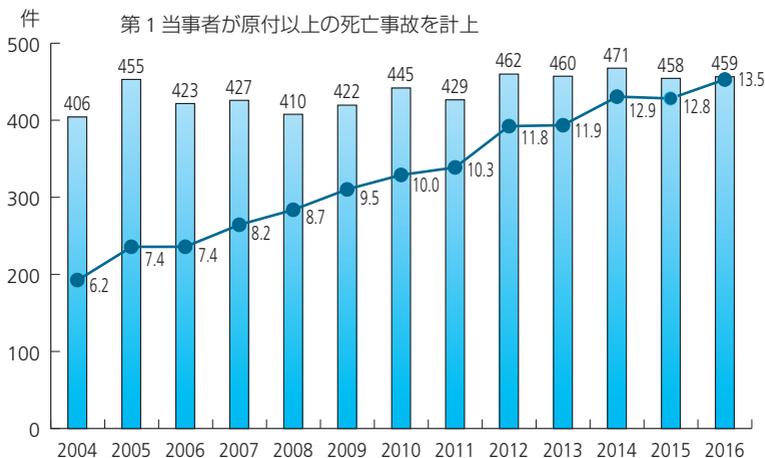


**図2 高齢者（65歳以上）死者数の推移**  
 (平成28年における交通事故死亡数について 警察庁交通局平成29年2月23日などの資料から著者作成)

していることがわかるが、全体の死者数がより減少していることから高齢者比率は増加を続け2016年には全死者数の半数を超える状況になっている。

### 高齢運転者による死亡事故件数の推移

**図3** は、75歳以上の高齢運転者による死亡事故件数とその構成比を示したものである。2004年以降の統計をみると、75歳以上の高齢運転者が死亡事故を起こしている件数自体は決して増加していない。この間では400人台で推移していることがわかる。ただし全体数に対する構成比は緩徐な増加を続け2016年では13.5%を占めている。ここから誤解をしてはならないことは高齢運転者による死亡事故件数の絶対数は決して著増しているわけではないことである。新聞などでは高齢社会の進展に伴いあたかも高齢運転者による死亡事故が増加しているように報道しているが、構成比は確かに増加をしているが絶対数の増加はない事実をきちんと把握しておくことが重要である。



**図3** 75歳以上の高齢運転者による死亡事故件数とその構成比  
(道路交通法の一部改正について 警察庁交通局運転免許課平成27年10月13日、第5回高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議資料などから著者作成)

## 高速道路逆走は認知症患者が多いのか

新聞などで高速道路を逆走した認知症患者の記事を時折みかけるが、はたして高速道路を逆走するのは認知症患者が多いのだろうか。国土交通省から出されている資料（Press Release 国土交通省 平成28年11月22日 道路局「2020年までに逆走事故ゼロを目指し逆走対策技術を公募します」）をみると、2015年には全国の高速道路で259件の逆走がみられている。つまり3日に2回は全国のどこかの高速道路で逆走が発生していることになる **図4**。逆走の約半数はインターチェンジ（IC）、ジャンクション（JCT）で発生している。2011年から2016年6月までに全逆走件数は1,153件に及んでいるが逆走（事故または確保）運転者の年齢分布をみると、65歳以上が67%を占めており逆走車の約5割は軽自動車であった。逆走した運転者の状態分析では、認知症疑いはわずか8%で精神障害5%、飲酒2%を合わせても15%に過ぎず、逆走の原因がある程度ははっきりしている事例はそれほど多くはない **図5**。83%は特定の原因を同定できない逆走である。高速道路を逆走する運転者に認知症が多いとの通念は、認知症だから判断力の低下や操作機能障害などがあって運転を誤るのだろうとのやや偏見に基づくものともいえる。マスコミなどの報道

に惑わされることなく事実を正確に把握することが重要である。

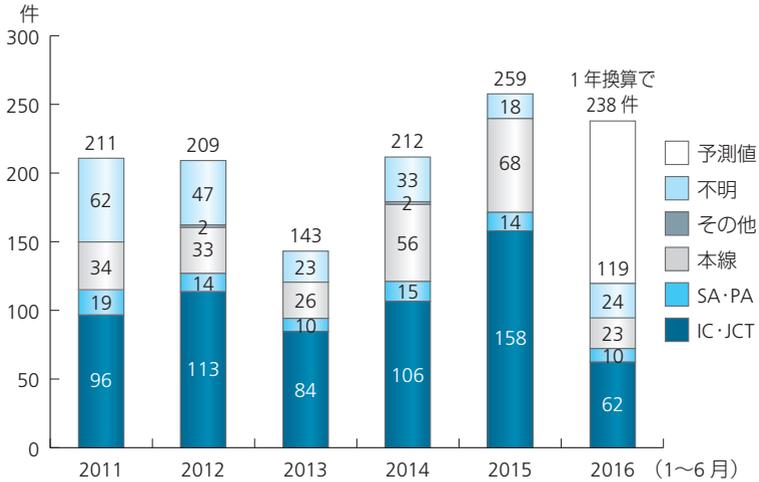
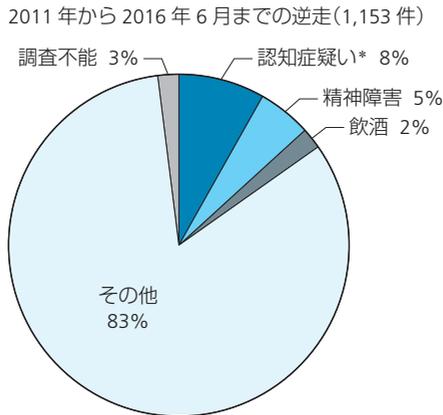


図4 逆走発生件数の推移と発生場所

(国土交通省道路局 平成 28 年 11 月 22 日の Press Release から作成)



\*認知症の疑いとは、家族からの聴取等により運転者に認知症の疑いがあると判断したもの

図5 逆走 (事故または確保) 運転者の状態 (病態)

(国土交通省道路局 平成 28 年 11 月 22 日の Press Release から作成)

## 通院している認知症患者における自動車運転の実情

認知症と診断されている患者群でどれくらいの患者が現在も運転をしているのだろうか。

ここでは日本精神科病院協会雑誌に掲載された自動車運転について認知症患者（軽度認知障害を含む）の家族に著者が施行したアンケート調査の結果を紹介する。対象は2015年5、6月の2カ月間に当院認知症疾患医療センター通院中の再来認知症患者344名（アルツハイマー型認知症292名、レビー小体型認知症23名、血管性認知症6名、前頭側頭型認知症2名、病型判断困難17名、軽度認知障害4名）である。表1にアンケート内容を示した。具体的には患者が自動車免許を取得しているか否か、取得している場合に現在も運転をしているのか否か、過去2年間に交通事故（人身・物損事故）や交通違反（速度違反や信号無視など）を起こしたことがあるか、あるとすればその具体的な内容、車庫入れの際に車をぶつけたり傷つけたりしたことはないか、患者の車に同乗していてヒヤットとする、危ないと感じたことはないかである。

344名のなかで運転免許を取得している患者は202名で、そのうち40名は認知症と診断される前あるいはアンケート調査前に運転免許証を自主返納し

**表1** 通院認知症患者の自動車運転の実態アンケート

（八千代病院 愛知県認知症疾患医療センター）

### 車の運転についてお聞きします

- |   |    |     |
|---|----|-----|
| ①現在、日常生活で車を運転していますか                       | はい | いいえ |
| ②最近2年間で交通事故（人身や物損など）を起こしたことはありますか         | はい | いいえ |
| ③交通事故を起こした方にお聞きします どのような事故を起こしましたか<br>（ ） |    |     |
| ④最近2年間で交通違反（速度違反や信号無視など）を起こしたことがありますか     | はい | いいえ |
| ⑤交通違反を起こした方にお聞きします どのような違反を起こしましたか<br>（ ） |    |     |
| ⑥最近2年間で車庫入れなどの際に、車をぶつけたり傷つけたことはありますか      | はい | いいえ |
| ⑦患者さんの車に同乗していてヒヤットとする、危ないと感じたことはありますか     | はい | いいえ |